

西原観音堂の会式と 落慶式が行われました

去る4月2日(日)、あろあじま蘭島の南側に位置する清水区西原地区の西原観音堂において、春の節句会式が行われました。西原観音堂は、西原地区の高台にあり、住民の間では「観音さん」と呼ばれ信仰されています。建物は茅葺かやぶき、トタン張りの三間堂で、古くは西側の山中にあった極楽寺が焼失し、享保8年(1723)現在地へと再建されました。また、建物内部の墓股かえるまたという裝飾部材には、「船上観音」と呼ばれる海の中を小船で進む観音様が表現されており、図柄としては大変珍しいものです。

観音堂は江戸時代の建築後、現在に至るまで数回の増改築が行われてきましたが、シロアリ被害や地盤沈下によって昭和40年(1965)頃から建物が傾き、倒壊を防ぐために鉄骨で支えられるなど、長年その整備改修が地域の大きな課題となっていました。

平成25年(2013)10月17日、蘭島と周囲の景観が国の重要な文化的景観に選定され、西原観音堂も重要な構成要素として登録を受けました。有田川町では、地域の

先人が伝えてきた歴史ある建物を後世に受け継いでいけるように、整備改修について地域住民の方々と検討を進め、昨年9月から整備工事を進めてきましたが、このほど完成し、会式と合わせて落慶法要らくけいが営まれました。

今年の会式は日曜日に開催されたこともあり、100人を超える多くの方が参加し、中山町長、工事関係者、行政関係者の出席のもと盛大に行われました。今回の整備改修では、建物の傾きを補正し、地盤改良や耐震補強によって耐震性を高めるとともに、建物が建てられた当初の姿に復元する形で整備を行いました。地域の方々にも「お堂の姿が良くなった、きれいになった」と喜んでいただきました。

